

- 七、儂の兄弟七人ござる、江戸と大阪と伏見と奈良と、伊勢と神戸と松坂と。
- 八、縁じや縁じやと云つて連れて来て、何が縁じやよ、土塵じやわい。
- 九、死んで花實が咲くならとつき、飽が森には花が咲く。
- 十、盆よ〜よと盆待ち兼ねて、今日はお盆の十六日よ、朝からお山の萎れ草、萎れた草をぎんぎと刈れば、草刈鎌の柄が折れた、折れたら何じや曲つたら何じや、世間に鍛冶屋はないものか、世間に鍛冶は六軒ござる。六軒鍛冶屋に皆打たしよ〜
- 十一、盆が来たとして何嬉しかろ、帷子はなし帯はなし、帷子もある帯もあるが、可愛がつてくれる親がない。
- 十二、正月三日盆三日、盆より正月え、事じや、木履の齒の様な餅食つて、雪より白い飯食つて、木皮の様な魚添へて、赤いべい着て羽根ついた。
- 十三、今泣いただあれ、だんなさんの猫よ、おれもちいと泣いたらか、ニヤアゴ〜。
- 十四、今泣いただあれ、山の坊主の泣き笑ひ、いたちにぼわれてキヤツ〜キヤ。

第七節 言ひ習はし

次に掲げる言ひ習はしは本村に於ける重なるものであるが、これはひとり本村のみならず、尾北の町村に廣く言ひなら

されてゐるものが多い。

- 一、夜爪をきると狂人になる。
- 二、三りんぼうに家をたてると倒れる。
- 三、足袋をはいてねると出世が出来ない。足袋をはいてねると親の死に目に會へない。
- 四、着物の繫糸をとらずに着ると狐に化かされる。
- 五、人からだをまたがれると丈が伸びぬ。
- 六、硯へ字をかくと手が上らぬ、お手玉をやると手が上らぬ。
- 七、朝蜘蛛が下ると其の日によいことがある。夜蜘蛛は泥棒の使をする。
- 八、朝蜘蛛が下るとその日に客が来る。
- 九、夜爪をきると親の死に目にあへぬ。
- 十、妊婦が火事を見て體をかくと、生れた兒に赤あざが出来、葬式時には黒あざが出来る。
- 十一、鍋から物をたべると鍋のやうな子が生れる。
- 十二、夜口笛を吹くと蛇が出て来る。夜ほ〜づきをならずと蛇が来る。
- 十三、爪をもやすと狂人になる。
- 十四、食後すぐに寝ると牛になる。
- 十五、蛇に指さすとその指がくさる。

六、米を粗末にすると、盲目になる。御飯を粗末にすると盲目になる。

七、初雪を食べておくと夏やみをせぬ。

八、物もらひの出来た時に、他所の門口で物を貰つて食べるとなほる。

九、齒の抜けた時上齒ならば雨だれおちへ、下齒ならば屋根へあげると生える。

十、白馬に齒を見せるとくさる。

十一、口まねをするとうがさが出来る、口まねすると口がよごれる。

十二、友引の日に葬式をすると、又後から死人が出来る。

十三、物をふんだ時は、其の物を頂いておくと罰があたりぬ。

十四、二度湯へ入るか新湯へ入ると、風をひく。

十五、二人で火を吹くと仲が悪くなる。

十六、寝てゐて物を食べると瘤が出来る。

十七、何か不淨な物を指した時、指きりすれば罰がのされる。

十八、指きりして約束した事を破ると指がくさる。

十九、升や桶をかぶると出世が出来ぬ、便所へさかさに落ちると出世が出来ぬ。

二十、便所へ一度落ちて置かないと死ぬ時便所で死ぬ。

廿一、一富士、二鷹、三なすびといつて富士や鷹や茄子の夢を見るとよいことがある。

廿二、めん棒をまたいだり踏むと、めんぼが出来る。

廿三、死なん蛇の夢を見るとお金がはいつて来る。死んだ蛇の夢を見るとお金が出て行く。

廿四、布團をかぶつて寝ると髪が切れる。

廿五、人に唾をかけるとかつたいになる。

廿六、目の中へ塵の入つた時、頭だけ後を向いて三度唾をはくと出る。

廿七、おこりになつた時、井戸へ箕を見せるとおこりがなほる。

廿八、火なぶりをすると寝小便をする。

廿九、鳥類を殺すと學問が出来ない。

三十、鳥を見て鳥の鳴聲をまねると口がさが出来る。

三十一、濃い茶を呑むと年を早くとる。

三十二、お月様にお星様が近いと火事がある。

三十三、三日月様を拜むと長者になれる。四日月様を拜むと長者になれる。

三十四、照り雨の時狐が嫁入する。

三十五、雨降りに傘をささずに歩くと頭にしらみがわく。

- 四六、あら湯に入ると早く年を取る。
- 四七、猫を殺すと七度家をかはる。
- 四八、丑刻参りを人に見られると其の願がとどかぬ。
- 四九、枇杷を植えると病人が出来る。
- 五十、初なり物を食べると七十五日長生が出来る。
- 五一、道を通る時前をいたちがふところへ入る方向に横切るとよい事がある。反対だこ悪いことがある。
- 五二、よそへ出がけに下駄が切れると悪いことがある。
- 五三、物を失つた時茶釜の手に薬を結びつけて置くと出て来る。
- 五四、他所へ出掛ける時茶釜の蓋を取つて置くと出先で悪い事がある。
- 五五、烏なきが悪いと人が死ぬ前徴。
- 五六、いぼの目が出来ると身内の者が死ぬ。
- 五七、足の母指の次の指が母指より長いと親より出世する。
- 五八、庚申様の月に生れた子には、金に縁のある名前をつけて置くと、一生金に不自由をせぬ。
- 五九、四十二の二つ子は一度捨てぬと育たぬ。
- 六十、くしやみをした時に一賞められ、二そしられ、三笑はれ、四風邪ひきといふ。

- 六一、百足虫を殺すとその日一日長者になれる。
- 六二、舊の四月八日のお釋迦様の日にお産湯で墨を磨つて、「千早振る卯月八日は吉日ぞ神下虫をせいばいぞする」の歌を書いて柱に倒に張つて置くと百足虫が出て来ない。
- 六三、耳が熱いとよい事がある。
- 六四、體へ火が入るとい、事がある。
- 六五、いぼの目が出来た時、榎の木に箸で移すとほる。
- 六六、流れ星が自分の方向に向つて流れるとよい事がある。
- 六七、馬の夢を見ると風をひく。
- 六八、一般の民家に銀杏や一位の木があると家運が悪い。
- 六九、佛檀を買ふと家族の者が死ぬ。
- 七十、お富士祭の日の火を拜んでおくと夏の病をせぬ。この火を見て摺鉢かぶつてやいとすえると頭やめせぬ。
- 七一、熱田様の御神馬の豆を食べると齒ぎりか治る。
- 七二、他所へ出掛に着了物の綻びを縫ふと着替へがなくなる。
- 七三、猫が失へた時「立別れ因幡の山の峯に生ふる、松(待)とし聞かば今歸り來む」の歌を書いて猫が食べて居た皿にふせて置くと来る。